

高齢者の well-being な（健康で生き生きした）生活を目指した健康支援システム構築のための実態調査

○松岡奈保子¹⁾，中村譲治¹⁾，筒井昭仁^{1,2)}

¹⁾NPO 法人ウェルビーイング，²⁾福岡歯科大学口腔保健学講座

(索引用語：well-being, 高齢者, インタビュー)

口腔衛生会誌 58 (4), 2008

目的：

我が国では、高齢者の大半は欠損歯を有しているものの健常であり、多くが一定レベルのQOLを維持し日常を過ごしていると考えられる。しかし、日常的に歯科診療所を訪れる健常な高齢者が、将来に渡って well-being に生活していくための歯科医療機関の役割について、明確なプログラムは示されていない。著者らは健常な高齢者を歯科領域から支援する際、口腔だけに注目するのではなく生活に着目することが必要であると考え、well-being に関連した質問紙を独自に開発し調査を行った。合わせて定期健診目的で来院した高齢者に聞き取り調査を実施し、興味ある知見を得たので報告する。

対象・方法：

2008年3月に福岡県内19歯科医院に来院し本研究の趣旨に同意を得られた患者248名に自記式質問紙調査(22項目)を実施した。さらに自記式質問紙調査を実施した中で、健康診断目的で定期的に来院している患者106名に歯科医師、または歯科衛生士が、「何故定期的に来院していただいているのか?」を聞き取り、インタビューシートに記入した。

インタビューで聞いた意見は、パーソナルコンピュータに入力し、切片化を行い125の意見を抽出し、5名の歯科医師、1名の歯科衛生士で切片化された意見のグループ化を行った。

結果：

ブラッシングのチェックについて以下の意見があった。
・前にくらべて歯みがきの仕方がよくなった・自分でもできるだけ磨くけど磨き残しもありチェックしてもらうのがいい
また早期発見早期治療について以下の意見がみられた。
・悪くならないように早めに発見して治療してもらいたい・小さな処置ですむ

プロケアの効果としては以下の効果が記載されていた。
・痛みもなくさわやかで気持ちがいい・自分で磨けないところもみがいてもらえる

また将来の定期健康診断の目的に関しては以下記述がみられた。

・歯を抜きたくない・痛くなりたくない・歯を長持ちさせた

い・できるだけ自分の歯でかみたい・ゆたかな食生活を続けたい

歯科医との信頼関係に関しては以下の記述が見られた
・安心できる・信頼できる・自分にあった歯医者が見つかった

考察：

治療者と定期健診受診者について自記式質問紙の結果を比較検討した。定期健診受診者は治療者と比較して、歯を20本以上を有する割合が高く、咀嚼能率も高く、良好な食生活を送っている状態が示唆され、WB度、外出、趣味など生活の充実も勝っている実態が示唆された。

定期健診受診者に実施したインタビューの結果は、定期健診受診者は口腔診査、ブラッシングチェック、プロケアに満足し、疾患の経験、治療の体験から歯を残したい、痛みを経験したくないなど早期発見早期治療にも意義を認めている様子が伺えた。自分の歯で噛みたい、豊かな食生活を送りたいなど将来に向けて現状維持を望んでいる様子が伺え、かかりつけ歯科医と信頼関係を築き、定期健診で安心を得ている様子が伺われた。

現在歯数
定健群は、現在歯数が多い (p<0.0001)

